

笑いと活力届ける

市内2カ所で落語会

大船渡

東京都千代田区の保険会社・いきいき世代(株)主催の落語会は16日、大船渡市赤崎町の漁村センターと同市末崎町の末崎地区公民館で開かれた。林家一門の真打ち・林家錦平さんが出演し、住民たちに笑いと活力を届けたい。

同社は震災後、市内の中学生を対象とした学習支援プロジェクトを支援。落語会は「高齢者らにも何か支援を」と初めて企画した。

もので、午前中に漁村センター、午後に末崎地区公民館で催された。

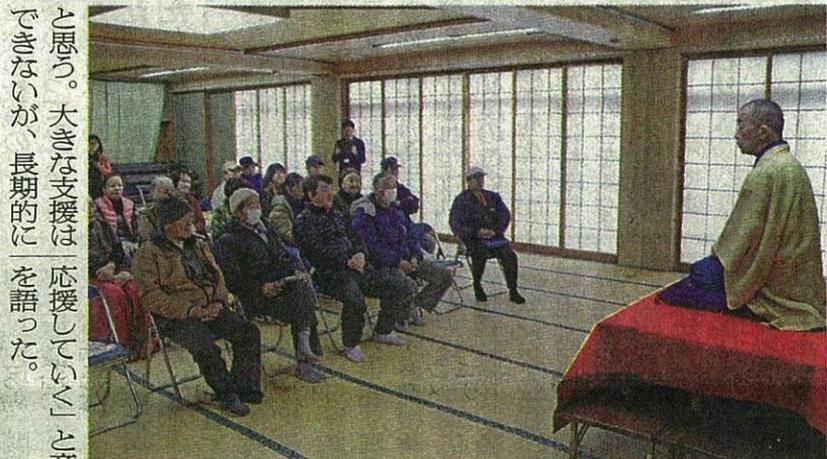
このうち、末崎地区公民館では、住民ら20人余りが参加。錦平さんは古典落語の演目の一つ「壺算」などを披露し、軽妙な語り口で笑いを誘った。津軽三味線の演奏もあり、住民らは心ゆくまで催しを満喫した。

同社の本間尚登社長は「被災地の復興にはまだまだ時間がかかる

岩手日報

2014年3月17日付

この記事・写真は岩手日報社の許諾を得て転載しています。



林家錦平さんの落語に笑い声を響かせる住民ら—末崎町

と思う。大きな支援は応援していき」と意欲できないが、長期的にを語った。

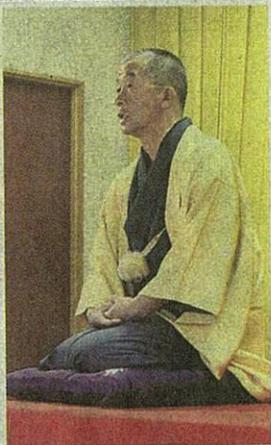
巧みな話芸 笑顔と元気

大船渡・落語会

林家一門の真打ち林家錦平さんの落語会は16日、大船渡市赤崎町の赤崎漁村センターで開かれ、巧みな話芸で被災地の住民に笑顔と元気を届けた。

古典落語「紙入れ」「ねずみ」を披露。テノボの良い語り口で、地域住民ら約30人を引き込んだ。

同市赤崎町の山口光さん(80)は「生の落語



巧みな話芸で聴衆の笑いを誘う林家錦平さん

は久しぶり」、赤崎町の仮設住宅で暮らす鈴木ケイ子さん(85)も「たぐさん笑いをもらえて良かった。またチャンスがあればお願いしたい」と喜んだ。

落語会は、震災後の2012年から市内3地区で中学生の学習支援活動を続ける企業

岩手日日新聞

2014年3月19日付

落語と津軽三味線 仮設入居者に英気

大船渡

落語家林家錦平さんらの出演による寺子屋いきいき世代落語会「笑いと健康(いきいき世代主催)」は16日、大船渡市内2カ所で開かれた。東日本大震災からの心の復興を支援。仮設住宅入居者らが集まって落語と津軽三味線の演奏で和やかなひとときを過ごし、復興への英気を養った。

午前中に同市赤崎町の漁村センター、午後に同市末崎町のふるさとセンターで開催。主



寺子屋いきいき世代落語会で「壺算」を披露する林家錦平さん。16日、大船渡市末崎町のふるさとセンター

催す同社の本間尚登代表取締役社長も訪れ「震災後に赤崎や末崎で中学生への学習支援を継続している。新たに心の復興の支援として落語会を開いた。楽しんでください」と被災者らを激励した。

同社は2012年8月から「ふんばろう東日本支援プロジェクト」運営による学習支援プロジェクトを資金面などから応援。市内3カ所で学習会「寺子屋いきいき世代」をおおむね2回開き、県外の大学生らがボランティアで指導に当たっている。

落語会は、少額短期保険業者である同社の顧客層向けに企画。中高年が気軽に集える場を提供したいと初めて試みた。林家一門真打ちの錦平さんが古典落語の演目「壺算」などを披露。巧みな話芸に会場は終始笑いが絶えなかった。